

平成 26 年 9 月 4 日  
日本原子力発電株式会社

敦賀発電所敷地内破砕帯の調査に関する有識者会合  
第 4 回追加調査評価会合の状況について

本日開催された「敦賀発電所敷地内破砕帯の調査に関する有識者会合」の第 4 回追加調査評価会合において、当社から、有識者会合から示された論点に対する説明を行いました。その状況についてまとめましたので、お知らせいたします。

添付資料：敦賀発電所敷地内破砕帯の調査に関する有識者会合  
第 4 回追加調査評価会合での説明状況（整理表）

以 上

## 敦賀発電所敷地内破碎帯の調査に関する有識者会合第4回追加調査評価会合の状況(整理表)

項 目	状 況	会合の状況
1.1. 地層区分全般	－	断層評価上重要な③層、⑤層の堆積状況について、当社から改めて説明したが、議論がなされなかった。
1.2.a ⑤層下部テフラの降下層準	△	新たなデータ(明神沖テフラ)も含めて説明をし、それに対する問題点の指摘もなかったが、有識者側の見解は示されなかった。
1.2.b ⑤層下部テフラの同定について	△	新たなデータ(明神沖テフラ)も含めて説明をし、それに対する問題点の指摘もなかったが、有識者側の見解は示されなかった。
	△	有識者側の見解の根拠としている「美浜テフラの直接的年代測定が必要であるとの意見」の主旨が確認できなかった。
1.3. ③層の堆積年代について	△	有識者が「③層は後期更新世の地層の可能性はある」との根拠の一つとしている土壌化に関する説明を行い、有識者からはそれに対する問題点は示されなかったが、有識者側の見解を見直すか否かについては議論はなされなかった。 また、原電道路ピットの③層上部の年代データが得られたことを説明したところ、有識者から今後検討したい旨の発言があった。
2.1. K断層の最新活動時期の認定	△	北西法面でK断層の影響を受けていない地層の地質データ(腐植層が傾いていることや地層の走向・傾斜のデータ)を提示し、一部有識者からは持ち帰り検討を行いたい旨の意見が示された。
	△	原電道路ピットがこれまで議論に取り上げられていない理由として、③層上部の年代が明らかになっていない点にあることが、本会合で明らかになった。一方で、当社は③層の年代に関する新たなデータを示したが、議論がされなかった。
	△	有識者が「K断層が⑤層下部に影響を与えていることが否定できない」とする根拠の具体的理由を求めたが、回答がなかった。
2.2. K断層の累積性の有無	△	有識者が「K断層が⑤層堆積以降を前提に複数回活動したとしている意見」に関する具体的理由を求めたが、回答がなかった。
	△	1-1ピットの北面についても累積がないことを当社が口頭で説明したが、資料で改めて説明してほしい旨の発言があった。
2.3. K断層の運動像	○	K断層は逆断層であるとする当社の見解を改めて説明し、有識者もこれに同意した。
3. K断層の連続性についての評価	△	当社がこれまで示してきたD-1破碎帯の連続性評価に関する考え方やデータの信頼性について、改めて有識者側の見解を求めたが、回答はなかった。

○：議論を行い、共通の結論に至った

△：議論は行われたが、有識者側の見解が示されていない

－：議論が行われていない